

【事業内容】

(公社) 日中友好協会代表団が訪中し、北京で開催された日中平和友好条約締結 35 周年と中日友好協会創立 50 周年を記念するシンポジウムおよびレセプションに参加した

【訪中期間】

2013 年 10 月 21 日から 23 日まで

【開催場所】

北京・釣魚台国賓館

【主催者・共催者等】

中国人民対外友好協会、中日友好協会

【報告】

日中平和友好条約締結 35 周年と中日友好協会創立 50 周年を記念するシンポジウムおよびレセプションが 10 月 22 日午後、北京の釣魚台国賓館で開かれた。日中の関係者約 120 人が参加し、加藤紘一会長、谷井昭雄名誉副会長をはじめとする (公社) 日中友好協会代表団 13 人や丹羽宇一郎・前駐中国大使らがこれに合わせて訪中した (代表団は



21 日から 23 日まで)。シンポジウムでは、尖閣諸島や歴史認識の

日中の 120 人余が参加したシンポジウムの模様

問題をめぐって冷え込む両国関係が民間交流にまで影響を及ぼしていることが提議され、参加者は経済など各分野の民間交流は双方に極めて重要で、関係改善のためにも促進が不可欠であるとの認識で一致した。シンポジウムは、中日友好協会 (以下、中日友協) と中国人民対外友好協会が共同で主催。協会代表団は、中日友協に招かれ訪中した。

主催者を代表し、王秀雲中日友協副会長があいさつした後、谷井名誉副会長、熊波中国外務省アジア局副局長、木寺昌人駐中国大使がそれぞれ来賓のあいさつを述べた。

谷井名誉副会長は、日中両国が「新たな発展の転機にある」とし「世論を動かす力で民間交流を拡大させ、さらに国民同士の相互理解を促す必要がある」と呼びかけた。続いて劉徳有元中国文化次官と丹羽前大使による基調講演が行われ、劉元文化次官は、日中は「ボタンを掛け違えた状態」と例え、文化と青少年の交流の強化が関係改善につながると指摘した。一方、丹羽前大使は「両首脳が 1 年間、話をしない状態は世界でも極

めて稀で異常だ」とし「それを平然と見ている国民もおかしい」と述べた。さらに「私を含め、われわれ国民がもっと緊張感をもって、これから何をし、どう進むべきかをしっかり考え、自国の首脳にプレッシャーを与え（訴え）なければならない」と主張した。

このほか、楊伯江中国社会科学院日本研究所副所長と村岡久平協会理事長が代表発言し、自由討論では、西堀正司協会常務理事らが意見を述べた。シンポジウム終了後は中日友協主催のレセプションが開かれ、唐家璇中日



左から加藤会長、唐家璇会長、丹羽前大使。レセプション会場で

友協会長と加藤協会会長がそれぞれあいさつした。加藤会長は協会を代表し、中日友協創立 50 周年を祝う「記念の盾」を唐会長へ贈った。

厳しい日中情勢の中でのシンポジウム開催は、意義深く、特に日中の両外務省関係者が共に出席し、互いにこれ以上の事態の悪化を望まない姿勢を示したことは、関係修復への第一歩となった。

(協会代表団メンバー)

加藤紘一会長 谷井昭雄名誉副会長 村岡久平理事長 西堀正司常務理事 大藪二郎常務理事 小野寺喜一郎常務理事 小田眞弘理事 藤井省三理事 宇都宮徳一郎理事 田邊恵三監事 加藤鮎子会長令嬢 吉野好輝会長秘書 山岸清子事業部部長

(記念シンポジウム参加の主な日本人関係者)

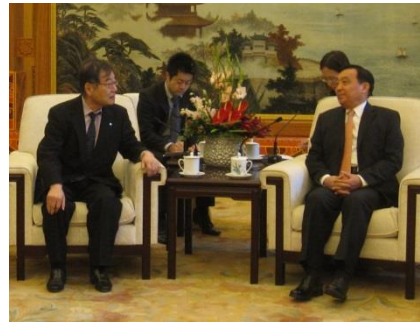
木寺昌人駐中国大使 三上正裕駐中国公使 小林淳一島根県副知事 難波明日本寧夏友好交流協会会長 山野幸子(一財)日本協力センター理事長 寺崎秀俊(財)自治体国際化協会北京事務所所長 日本航空(株)、全日本空輸(株)の両中国総代表 南村志郎(一社)神奈川県日中友好協会副会長 大谷育平広島県日中友好協会副理事長 メディア関係各社の中国駐在代表など(順不同)

王晨全人代常務委副委員長と会談

加藤紘一会長ら協会代表団は 10 月 23 日午前、北京の人民大会堂・湖南省の間で、王晨・全国人民代表大会常務委員会副委員長兼秘書長と会談した。

加藤会長は日中関係の改善について、「会うこと、話し合うことが最重要だ。双方の外務省には優秀な人材がいるので解決できる」と述べた。一方、王副委員長はまず、協会の日頃の活動と努力に感謝を表し、「中日関係の改善のために民間が果たす役割は大きい。両国の民間団体は最前線に立つ気持ちでやらなければならない」と述べ、協会に対し「新しい貢献」を期待した。

王副委員長はまた、「中国側の対日関係重視の姿勢は変わらない」としながらも、尖閣諸島や歴史認識などの問題において、「(日本は)中国の発信を正しく認識してほしい」と述べた。会談には、丹羽宇一郎前駐中国大使も同席した。



会談する加藤会長(左)と王晨副委員長

中華全国青年連合会を表敬訪問

加藤紘一会長ら協会代表団は 10 月 21 日午後、北京の中華全国青年連合会を表敬訪問し、周長奎・中国共産主義青年団中央書記処書記(同連合会副主席)と会見した。

会談の席で小野寺喜一郎常務理事は、自らが団長として率いた 1984 年の「日本青年 3000 人訪中代表団」から来年 2014 年で 30 周年になることをあげ、「当時の参加者たちはこの 30 年で日中関係を築き上げたという自負がある」と述べた。同じく 3000 人交流に参加した西堀正司常務理事も、青少年交流の重要性と促進を強調。「30 周年を記念した何かのイベントをやりたい」と話した。

これを受けて周書記は、15 年前に中国青年代表団を率いて訪日した経験を述べ、「ご提案は検討したい。具体案はまた考えましょう」と前向きな姿勢を示した。